

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地	
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番1他 (電話) 042-637-3111	
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 片柳学園		昭和25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111	
目 的	常に新鮮なる人材を要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身に付け、職業人としての 自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を養成する。ロボット科ではメカトロニクスシステムの製作と制御を通じて実践的な機械設計・制御のスキルを持った技術者の養成を目的としている。						
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与	
工業	工科技術専門課程	ロボット・機械科	2年(昼)	1,710単位時間 (又は単位)	平成25年文部科学 大臣告示第2号	—	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技	
		780単位時間 (又は52単位)	一単位時間 (又は単位)	一単位時間 (又は単位)	1170単位時間 (又は39は単位)	一単位時間 (又は単位)	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		112人		5人	3人	8人	
学期制度		■前学期：4月1日～9月30日 ■後学期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 成績評価の方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定		

長期休み	■学年始め ：4月1日 ■夏 季 ：7月21日～8月31日 ■冬 季 ：12月23日～翌年1月8日 ■春 季 ：3月18日～3月31日 ■学 年 末 ：3月31日	卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること
生徒指導	■クラス担任制 （有・無） ■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。	課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動 （有・無）
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)IHI瑞穂工場 (株)IHIロジテック (株)アルプスビジネスサービス ■就職率 ※1 75.6% ■卒業者に占める就職者の割合 ※2 63.3% ■その他 （任意） （平成25年度卒業者に関する平成26年4月時点の情報）	主な資格・検定	産業用ロボットの教示等の特別教育、産業用ロボットの検査等の特別教育、ガス溶接技能講習 トーレス技能検定 アーク溶接特別教育 CAD利用技術者試験 ほか
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 4.6% 平成25年4月1日在学者 109名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 102名（平成26年3月卒業生を含む）休学者2名を除く ■中途退学の主な理由 進路変更・就職、経済的理由、病気療養・怪我治療 ■中退防止のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。		
ホームページ	URL： http://www.neec.ac.jp/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

機械設計、制御に関わる企業等へのヒアリングを適宜実施し、メカトロニクス分野の実務に関する知識・技術を調査してカリキュラムに反映させる。更に、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を検証する事により実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年9月22日現在

名前	所属	任期
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校	平成27年3月31日
山野 大星	日本工学院八王子専門学校	平成27年3月31日
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校	平成27年3月31日
前川 勲	サイバーシルクロード八王子	平成27年3月31日
一瀬 康剛	株式会社アトム精密	平成27年3月31日
吉田 新一	株式会社IHI	平成27年3月31日

(開催日時)

第1回 平成26年8月27日 10:00~10:30 10:45~11:15
第2回 平成27年3月27日 10:00~10:30 10:45~11:15

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

機械設計、機械制御などのメカトロニクス分野に関する実践的な実習や演習を行うために、企業活動の動向について指導を受けられる企業を選定している。また、指導を受けるに当たっては各分野で必要となる知識、技術、資格を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

科目名	科目概要	連携企業等
テクノロジー実習1.2	ロボットの仕組みを理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を学ぶ。	キャタピラー教習所株式会社
ロボット応用実習1.2	総合的な演習を行う。ロボット競技会へ向けた活動を単位認定する。	キャタピラー教習所株式会社
ロボット応用実習3.4	総合的な演習を行う。ロボット競技会へ向けた活動を単位認定する。	キャタピラー教習所株式会社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、最新の技術力と技能、人間力を修得する。新たな技術の研究や理解等は教員においては必須のスキルとなっている。また、社会に出た後は、技術だけでなく人間としての成長を求める企業は多いため、学生に技術に加え、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけてもらうための教員研修の実施・継続が不可欠と位置づける。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年9月22日現在

名 前	所 属	任 期
金子 英明	セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー	平成27年3月31日
細谷 幸雄	八王子商工会議所 事務局長	平成27年3月31日
森 健介	白梅学園高等学校 副校長	平成27年3月31日
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成27年3月31日
古木 勝紀	株式会社バンパー 取締役	平成27年3月31日
石川 仁嗣	医療法人社団健心会みなみ野ハートクリニック 事務長	平成27年3月31日
杉山 一夫	株式会社リンキィディング 代表取締役	平成27年3月31日
松浦 弦三郎	松浦技術士事務所 代表	平成27年3月31日

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://www.nhac.ac.jp/news/131129/nhac_report.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: http://www.nhac.ac.jp/news/131129/nhac_report.pdf

授業科目等の概要

（工科技術専門課程 ロボット・機械科）平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			ビジネススキル1	社会人として必要な、ビジネス文書の書き方、行動・人間関係の構築、仕事への態度・心構え、知識・資料の活用などについて学習します。	1・前	30	2	○		
○			ビジネススキル2	就職に必要なマナーや一般常識などを学び、就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。	1・後	30	2	○		
		○	キャリアデザイン1	就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身に付けます。	1・前	30	2	○		
○			パソコン実習	社会人として欠かすことのできないコンピュータスキルを学びます。Windows や Office の使い方、インターネット利用上のマナーなどについて学びます。	1・前	60	2			○
		○	スポーツ実習1	冬季期間中に集中授業としてスキー、スノーボード教室を実施します。	1・後	30	1			○
○			ロボット入門	ロボットの全般、特に機種、特徴について学びます。	1・前	30	2	○		
○			エレクトロニクス1	ロボットを動かすために必要な、エレクトロニクス技術について学びます。直流回路や交流回路、静電気など基本技術を学びます。またトランジスタやICなどの半導体技術についても学びます。	1・前	30	2	○		
○			エレクトロニクス2		1・後	30	2	○		
○			デジタル回路	ロボット制御の基本となるデジタル技術、2進法や論理回路などについて学びます。	1・通	30	2	○		
○			メカニクス1	ロボットの設計や製作に必要な、機械や材料の基礎知識を学びます。	1・前	30	2	○		
○			メカニクス2	ロボットの設計や製作に必要な、機械や材料の基礎知識を学びます。	1・後	30	2	○		
○			プログラミング1	ロボットへの動きを指示するコンピュータプログラム（ソフトウェア）の基本から、その考え方、作り方について学びます。	1・通	30	2	○		

○		マイコン1	ロボットやさまざまな機器を自在にコントロールするために使われているマイクロコンピュータの基礎について学びます。	1・後	30	2	○		
○		機械製図	ロボット製作に欠かすことのできない設計図の読み方や書き方を学びます。	1・前	60	2			○
○		3D-CAD実習1	ロボットや機械の設計に欠かすことのできない3D-CADソフトの使い方や応用方法について実習形式で学びます。	1・後	60	2			○
○		テクノロジー実習1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○
○		テクノロジー実習2	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○
○		ロボット製作実習1	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要基礎技術について実習し、実際にロボットを製作します。	1・後	90	3			○
○		ロボット制御実習1	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎について実習します。	1・後	90	3			○
	○	ロボット応用実習1	ロボットやものづくりに関する総合的な演習を行います。ロボット競技会へ向けた活動や展示会見学を単位認定します。	1・後	30	1			○
	○	ロボット応用実習2	ロボットやものづくりに関する総合的な演習を行います。ロボット競技会へ向けた活動や展示会見学を単位認定します。	1・後	30	1			○
○		プレゼンテーション1	社会人として必要な知識や自己表現力を学びます。	2・前	30	2	○		
○		プレゼンテーション2		2・通	30	2	○		
	○	キャリアデザイン2	就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身に付けます。	2・前	30	2	○		
		○	スポーツ実習2	冬季期間中に集中授業としてスキー、スノーボード教室を実施します。	2・後	30	1		○
	○		二足歩行ロボット1	2足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・前	30	2	○	
	○		二足歩行ロボット2	2足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・前	30	2	○	
○			ロボット技術1	ロボットやさまざまな機器に使われているセンサーの基礎と周辺技術について学びます。	2・前	30	2	○	

○		ロボット技術2	ロボットやさまざまな機器に使われているアクチュエータ（モーターなど）の基礎と周辺技術について学びます。	2・前	30	2	○			
	○	メカニクス3	ロボットの設計や製作に必要なメカの基礎と応用について学びます	2・前	30	2	○			
	○	バイオリボティクス	生物の動きのしくみと、それを実現する方法を学びます。	2・後	30	2	○			
○		ロボット制御1	ロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・後	30	2	○			
○		ロボット制御2	ロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・後	30	2	○			
○		プログラミング2	プログラムを応用してロボットを動かす方法などについて学びます。	2・前	30	2	○			
○		マイコン2	ロボットやさまざまな機器に使われているマイコンの応用について学びます。	2・後	30	2	○			
	○	人工知能	ロボットなどに使われる人工知能全般と、しくみについて学びます。	2・後	30	2	○			
	○	福祉ロボット	福祉の分野におけるロボットの現状や将来について学びます	2・後	30	2	○			
○		ロボット製作実習2	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要基礎と応用技術について実習し、実際にロボットを製作します。	2・前	90	3				○
○		ロボット製作実習3	高度な機能を持ったロボットの設計と作り方について実習し、実際にロボットを製作します。	2・前	90	3				○
○		ロボット制御実習2	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎と応用について実習します。	2・後	90	3				○
○		ロボット制御実習3	基礎を身に付けた上で、より実践的な技術、ロボットを動かすプログラムなどについて実習します。	2・後	90	3				○
○		3D-CAD実習2	3D-CADを使ってロボットや機械を設計する手法について、さらに詳しく実習形式で学びます。	2・前	60	2				○
	○	ロボットコンテスト	自分たちで作製したロボットを用いて競技会を行います。	2・後	30	1				○
	○	ロボット応用実習3	2年次の科目について総合的な演習を行います。ロボット競技会へ向けた活動や展示会見学を単位認定します。	2・後	30	1				○
	○	ロボット応用実習4	2年次の科目について総合的な演習を行います。ロボット競技会へ向けた活動や展示会見学を単位認定します。	2・後	30	1				○
合計				45 科目	1950 時間(91 単位)					